

本日の部会で、ご意見いただきたい事項

(基礎調査で把握された課題等を踏まえた討議・意見聴取事項)

- 1 学校等から離れた子ども・若者に、途切れることなく支援を行っていくために、どのような対応・取組を行っていく、あるいは強化していくことが考えられるか。
- 2 地理的・経済的事情から、若者支援総合センター（都心）の自立支援事業に結びついていない若者（潜在的ニーズ）に対して、どのような対応を行うことが考えられるか。
若者支援総合センターと若者活動センターは、どのような役割分担が適当か。
- 3 調査からは、居場所（ロビー）の重要性が高まっていると考えられる。
これからの若者支援施設のロビーはどのような役割を果たし、そのためには、ハード面でどのような整備が望まれるか。
- 4 区の保健福祉部門といっそう有機的に連携し、支援の相乗効果を発揮していくためには、どのような方策が考えられるか。
- 5 札幌市全体が厳しい財政状況にある中で、持続可能なかたちで施設を更新していくためには、どのような方策が考えられ、その場合、どのような点に留意するべきか。（貸室機能や、若者の交流促進・育成支援機能はどうしていくべきか。）
- 6 その他

1 学校等から離れた子ども・若者に、途切れることなく支援を行っていくために、どのような対応・取組を行っていく、あるいは強化していくことが考えられるか。

◆ 教育分野(中学校、高校、教育委員会)と若者支援施設との連携の実績(現状)

- ＜中学校年代＞ 進路未決定等の中学校卒業生や教育支援センターに通所する中学3年生への、若者支援施設の紹介
- ＜高校生年代＞ 大通高校や一部の定時制高校での、出前授業・学校内ユースワークの実施

◆ 支援者ヒアリングでの意見（教育分野）

「パンフレットを配っても、知らない場所・知らない人に相談に出向く心理的ハードルは高い。学校や教育支援センター（一つ手前の支援）に在籍している段階から、若者支援施設の職員に出向いてきてもらって、“人”“顔”を、教員だけでなく、生徒や保護者に知ってもらうことが、相談（アクション）に踏み出す上で有効ではないか」

「中高生年代の利用を想定すると、自転車で行ける範囲や、ある程度交通の便の良い立地でなければ、継続的な利用につながらないのではないか」

【memo】

2 地理的・経済的事情から、若者支援総合センター（都心）の自立支援事業に結びついていない若者（潜在的ニーズ）に対して、どのような対応を行うことが考えられるか。 若者支援総合センターと若者活動センターは、どのような役割分担が適当か。

◆ 支援者ヒアリングでの意見（関係機関）

（児童福祉分野）「若者支援総合センター（都心）につなぎたい子どもがいても、交通費の捻出が難しくて紹介できないことがあった」

（生活困窮分野）「就労につながる支援を受けられるなら、経済的自立を支援する機関としても紹介しやすい一方、場所が都心に1か所しかないのであれば、現に困窮している方に定期的な利用を勧めることは難しい」

◆ 支援者ヒアリングでの意見（若者支援施設）

「遠隔地の若者の利用も勘案すると、拠点を増やす選択肢もあるが、自立支援は、①相談、②訓練、③居場所の3機能をワンパッケージで提供することで効果が高まる。①～③の機能を5つの施設全てに持たせることは現実的でなく（量的ニーズも不明）、利用者の利便性向上と、効果的・効率的な機能の提供の両立には、工夫が必要と思われる。

「若者活動センターは、上記のうち、①専門的な相談、②訓練の機能は有していないが、③居場所の機能は有している。例えば、若者の就労支援の“準備（初期）段階”を、③の機能を有する若者活動センターが担い、“実践（後期）段階”を、②の機能を有する区保護課の就労支援相談員が担うなど、他の支援と連携・組み合わせることができれば、若者活動センターでも、現状以上の支援が可能になるのではないか。」

【memo】

3 調査からは、居場所（ロビー）の重要性が高まっていると考えられる。 これからの若者支援施設のロビーはどのような役割を果たし、そのために、ハード面でどのような整備が望まれるか。

◆ 支援者ヒアリングでの意見（関係機関）

「普段（元気なとき）から貸室やロビーをポジティブに利用する中でスタッフと人間関係をつくり、何かあったときに『この人に話してみよう』と自然に思えることが、若者支援施設の特徴・強み。」

◆ 支援者ヒアリングでの意見（利用者・利用団体）

「勉強する場所があり、多少の雑音の中でみんなが好きなことをして過ごしている、今のロビーが気に入っている。」
「若者支援施設のスタッフは、自分から話しかけられなくても向こうから声をかけてくれる。距離感がとてもよい。」
「若者支援施設のロビーは単なるフリースペースではなく、スタッフと利用者が関わる場なので、ロビーと事務室（スタッフ）との距離・位置関係が重要。広さも一定程度必要。」

◆ 支援者ヒアリングでの意見（若者支援施設）

「ロビーは、ある程度の面積を取って、自習スペース、利用者同士の交流スペース、職員と対話できるスペースがあるのが望ましい。」
「生活の不安定な若者の利用も一定程度想定するなら、生活補助機能としての「食支援」があってもよいと思う。フードバンクと連携して軽食を提供する、材料費のみ徴収して自分たちで調理するなど。」

【memo】

4 区の保健福祉部門といっそう有機的に連携し、支援の相乗効果を発揮していくためには、どのような方策が考えられるか。

◆ 区保健福祉部門と若者支援施設との連携の現状

- ＜児童福祉分野＞ 日中の居場所を必要とする高校生年代の若者に、若者支援施設の紹介
- ＜生活困窮分野＞ 就労支援を専門とする相談員が、若年の若者にサポステを紹介

◆ 支援者ヒアリングでの意見

「児童福祉法の改正などにより、『乳幼児期から学齢期』への支援の接続の強化が進んでいる。今後は、『学齢期から若者期』への支援の接続の強化も考えていく必要がある。」

「児童福祉に携わる職員は、若者支援の取組を聞いたことはあっても、事例としてはあまりよく知らないことが多い。」
「中央区と若者支援総合センター、北区とアカシア若者活動センター（近距離施設）は、比較的連携の事例が多い。」

◆ 他都市の事例

- ・ ユースワークで把握した児童虐待事案を、同一庁舎内の子育て支援機関と共有することで、児童相談所の一時保護につなげていた。また、一時保護を解除した児童を、若者支援施設が居場所として受け入れていた（京都市伏見区）

【memo】

5 札幌市全体が厳しい財政状況にある中で、持続可能なかたちで施設を更新していくためには、どのような方策が考えられ、その場合、どのような点に留意すべきか。（貸室機能や、若者の交流促進・育成支援機能はどうしていくべきか。）

◆ 利用者アンケート

- ・ 他の類似施設も利用している割合
貸室利用者：46.3% ロビー利用者：14.6% 相談支援・イベント利用者：13.2%
- ・ これからの若者支援施設に求める機能（複数回答）
第1位：居場所の提供（643票）、第2位：活動場所の提供（456票）、第3位：不登校・ひきこもりの支援（402票）

◆ 支援者ヒアリングでの意見（利用団体）

「貸室は、探せば類似の公共施設も民間施設もある。若者支援施設のロビーのようなリアルで健全な交流の場は他にない。」
「当団体は若者支援施設の3年間の育成プログラムを受け、4年目から自走した。こうした支援は今後も続けてほしい。」

◆ 支援者ヒアリングでの意見（若者支援施設）

「自立支援関連の諸々の事業を主催する上で、活動室1室程度は専有が望まれる。」
「アカシア・豊平若者活動センターの体育室等は、大学のサークル活動やフリースクールの運動等の利用が多い。必ずしも若者支援施設が提供する必要はないが、その場合、何らかの別の方法等で、若者が低廉な価格で利用できる場が一定程度提供されることが望ましい。」
「若者の交流促進や団体育成支援機能は、他機関では提供していない。公的施設として維持継続が望まれるのではないか。」

【memo】

6 その他

【memo】